

男女共同参画推進センター

第5号

Newsletter

第1回ランチョン・ミーティングを開催

2018年11月30日に、男女共同参画推進センターとして第1回目となるランチョン・ミーティングを開催しました。



「タイムマネジメントのためのスマホ活用法」とのテーマで、理工学部の篠宮紀彦教授に講師を担当いただき、いつも時間がない！仕事の優先順位を管理したい！スマホのセキュリティを知りたい！など日ごろから皆さんが気になっているスマホを活用したタイムマネジメント術をわかりやすく解説してくださいました。これには7名の教職員が参加しました。実際にスマホを手に取りながらスクリーン画面に映し出される手順に従い操作すると、今まで使ったことが無い便利な機能を簡単に使うことができたり、スマホ社会の様々な動向も知ることができました。

終了後、参加者からは「大変参考になり刺激的な内容でした」「有意義な内容で、早速新しい機能を活用してみます」等の声が聞かれ、関心の高さがうかがえました。また、次回のテーマに対するリクエストもいただきました。

このセミナーは、本センターが主催する新たな取り組みのひとつです。ライブイベントやワーク・ライフ・バランスに関連するテ

マをもとに、本学の教職員スタッフが学部や所属を超えて交流できる、小単位のインフォーマルな情報交換や人間関係作りの場の提供を目的としています。

本学には様々な分野の専門家が数多くいらっしゃいます。仕事や生活に役立つ話題の中からひとつ身近なテーマを選び講師の方に簡単に情報提供をしていただき、その後、ランチをしながらアットホームな雰囲気の中で気軽に質問や懇談ができる場にして行きたいと考えています。

なお、次回以降は昼休みのランチョン・ミーティングの開催にとどまらず、放課後のトワイライト・ミーティングの開催も検討中です。皆様のご参加をお待ちしています。



男女共同参画推進センター
第1回ランチョンミーティング

タイムマネジメントのための

スマホの活用法

教職員
男女
問わず！

スマホを活用した
タイムマネジメントを解説！

いつも
時間がない！

仕事の優先
順位を管理
したい！

スマホの
セキュリティは？

第2回 学長と女性教員との懇談会開催

2019年1月22日、第2回目となる「学長と女性教員との懇談会」が開催されました。学部を超え、9名の女性教員が参加し、活発な意見交換がなされました。スーパーグローバルを推進している大学に相応しく、約半分の参加者が外国人教員の方々でした。

この懇談会は女性教員の育成や研究活動支援のさらなる推進を目指し、ワーク・ライフ・バランスやキャリアなどに関する現状と課題について、学長と女性教員が語り合う場として始まりましたが、今年度はより具体的な事柄に対しての質問も出されました。学部は異なりますが教員が日々直面している状況がよくわかり、共感しあえる有意義な機会となりました。



学長も参加者からの意見や質問に対して、とても丁寧に対応されていました。内容によっては解決に時間を要するものもあり、改善に向けて引き続き大学として検討いただくことも話されておりました。今後も男女共同参画推進センターとして、さらに女性教員が働きやすい職場環境となるよう努めて参ります。

第7回 講演会を開催

2018年6月14日、中央教育棟AW303教室において男女共同参画推進センター主催の第7回講演会を開催し、本学教職員や学生、一般の方など約120名が参加しました。今回は講師として、日本アイ・ビー・エム株式会社（IBM）人事・経営人材育成担当部長の岡部悦子氏を迎え、「ダイバーシティが拓げる日本の可能性」とのテーマで、働く現場である企業サイドから種々お話をいただきました。

岡部氏は、はじめにデータにもとづいて、女性の社会進出の現状について説明をされました。続いて、IBMの取組みとして、IBMにおけるDiversityの歴史について展開され、1911年の創立当初から女性および黒人を多数採用してきたIBMにおいて、「多様性を生み出すさまざまな価値観



がIBMの競争力の原点である」と述べられました。さらに現在のITを活用した柔軟な労働環境について事例を通して紹介してくださいました。

最後に、学生の皆さんに伝えたいこととして、「1点目に自分自身で決断して進む覚悟を持ちましょう。2点目に Goal を意識して持ちましょう。3点目に自分自身で出来ない理由・壁を作らないようにしましょう。4点目に多様な人と交流しましょう」と訴えられました。

その後の質疑応答では、参加者との活発な意見交換が行われました。

参加した学生からは「日本と世界とでは、仕事や職場におけるジェンダーギャップに大きな差があることを知り驚きました。今後の就職

活動の参考にしたいと思います。」(文学部3年・女性)「講演で紹介していただいた社会問題に対し、考えて行動していくことが大事だと思います。多くの学生に今日の講演の内容を伝えていきたいと思います」(文学部4年・男性)との声が寄せられました。



第4回 介護セミナーを開催

2019年1月21日、創価大学看護学部棟N302教室において、男女共同参画推進センター主催の「第4回介護セミナー」を開催いたしました。今回のセミナーの講師



には、高齢者あんしん相談センター寺田(八王子市地域包括支援センター)のセンター長であり、また看護学部の教育(地域在宅看護学実習の受け入れ)にもご協力を賜っている堀間華世先生をお迎えし、「介護の入り口―喪失体験とギアチェンジ―」というタイトルで講演をしていただきました。今回のセミナーには、本学の教職員および学生、また学外からも介護職に従事される方、家族の介護に直面しておられる方、その他介護に関心を持っておられる一般の方々が多く参加されました。

セミナーの冒頭、堀間先生は、「特にいまだ介護についての知識も経験も少ない若い人たちがじっくり考えるきっかけになってほしい」とご挨拶されて、お話を進められました。ご講演では、まず、日本の高齢社会の現状と将来見通し、平均寿命と健康寿命の関係、介護者および被介護者の希望やニーズについてのデータを分析しつつ、介護について考えることの重要性を示されました。その上で、介護する側もされる

側も、高齢期が「公私に渡って役割の方向転換を迫られるとともに、自分の死を受け入れる準備をする」時期であって、それまでの人生の歩みのギアチェンジの必要性を認識すること、自分にとって大切な対象・役割・アイデンティティ等の喪失体験とそこからの立ち直りに欠かせない「悲嘆の仕事」の重要性を理解すること、そして、立ち直りの先にある成長(PTG: Post Traumatic Growth)を意識することを述べられました。そして最後に、WHO憲章が明記している「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」を前提としつつ、「自分の生き方を自分で意思決定し、自分の人生をいきいきと生き抜くことこそが重要である」と強く主張されました。

講演終了後の参加者からの質疑およびアンケートには、「とても難しい心のケアの考える一助となった」(看護学部生、女性)、「『寄り添う』ということの本当の意味と役割を深く考えさせられた」(一般参加者、女性)などの感想も多く寄せられました。



つばさ保育所だより

創価大学の教職員の皆様をはじめ、地域にお住いの多くの方々に支えられ、つばさ保育所は2018年9月に開設2周年を迎えました。本年もほぼ定員いっぱいの園児が在籍し、創価大学・地域の子育て支援の一翼を担うことができ、感謝の念に堪えません。

つばさ保育所の園児たちはお散歩中に教職員の皆様、創大の学生、各国からの留学生との温かな触れ合いにより、日々愛情を感じながらスクスクと育てております。いつもお声を掛けて下さり、本当にありがとうございます。以下に本年度の活動の一部をお知らせいたします。(所長 高橋健司)

☆春の親子遠足開催 @小宮公園☆ 2018年4月21日

小宮公園にて親子遠足を開催しました。小宮公園は創価大学からも近く、自然豊かで広い芝生スペースもあり、様々なゲーム活動に対応できます。当日は晴天に恵まれ、多くの保護者の方にご参加いただきました。

内容はチーム分けして保護者対抗レースや大縄跳びなどで大盛り上がり！お昼は大きな木の下でシートを広げてお弁当タイム！短い時間でしたが、保護者同士・職員と親睦を深める行事となりました。



☆0歳から一流に触れる「ふじびツアー」@東京富士美術館☆

つばさ保育所のお子さまたちに大人気の「ふじびツアー」。東京富士美術館で年間おおよそ4回入れ替わり開催される展示を、毎回鑑賞しに行っています。特に夏頃に開催される「プリンス・プリンセス展(2016)」「ピーターラビット展(2017)」「長くつ下のピッピ展(2018)」などのお子さま向けの展示は特に楽しんでいきます。先日まで開催されていた「ロシア絵画の至宝展」でも、じーっと作品を見ながら何かを感じ取っているようでした。

乳幼児期に必要な教育は、世間で言うところの早期教育ではなく、あらゆる体験を通して五感で学ぶことが何より大切な教育と考えます。世界の一流の絵画造形を鑑賞できる「ふじびツアー」はつばさ保育所の「創価保育(教育)」実践のひとつです。



☆秋の行事「つばさフェスタ」@学生ホール☆ 2018年10月27日

毎年恒例となったつばさフェスタ。今年度は150名を超える参加者に来ていただきました。つばさフェスタは一般の保育園でいう「運動会」「お遊戯会」「作品展」がミックスされたもので、可愛く衣装を着た園児がステージで表現したり、親子で一緒に踊ったりします。また、会場の端には普段の保育の中で取り組んでいる制作活動の作品が並べられ、参加者の皆様に見ていただいております。

そして、特に目玉としているのは創大生との交流です。今回はブラジル人留学生に来ていただき、ブラジル流手遊び「ソコ・バチ・ビラ」をしたり、クルードダンス部やチアリーディング部の演舞を見たり、Soka Magicians Program や児童文化研究部の皆さんと交流しました。また、卒園生が集う場にもなっており、つばさ保育所を卒園したお友達の元気な姿にもお会いすることができ、楽しい秋の行事となりました。



オープンカフェを開催

2018年5月16日に第7回、12月19日に第8回となるオープンカフェを開催いたしました。

第7回 オープンカフェ

第7回は文学部の藤本和子教授をお招きして開催しました。ご自身の学生時代から創価大学教員になるまでの貴重な経験、そして、海外客員研究員としての研究活動についてなどを講演していただきました。また研究対象とされている現代英語の変化や、言語が社会を反映する様子などについてもお話していただきました。

講演後、参加者同士で「心に残っている大事な言葉」、「卒業後の設計」についてディスカッションしました。

男女の学部生と大学院生が参加され、学部を超えて活発にディスカッションをすることがで

きました。大変興味深い内容で、楽しく参加できたとの感想が寄せられました。



第8回 オープンカフェ

第8回は男性教員初の講師として、理工学部の井田旬一教授に担当していただきました。共



働き家庭での男女それぞれの役割とともに、本学理工学部（入学当時は工学部）1期生として大学院まで過ごされた間の学業、クラブ、研究に取り組まれたエピソード、海外での研究員生活など、様々な経験をお話していただきました。

「共同生活のポイントは？」というテーマで、参加者が小グループに分かれたフリーディスカッションを行い、お互いに価値観が異なることを受け入れること、など様々な意見が出ました。参加者は、色んな立場の視点から、楽しく意見交換ができたとの声が寄せられました。

★「つばさ保育所 一時保育についてのお知らせ」★

つばさ保育所では一時保育事業を行っております。利用対象は常勤教職員及び非常勤教員のお子さまとなっております。通常の保育と同様に、生後57日目より3歳を迎えた年度の3月31日までが利用可能となります。

利用の仕方はそのご家庭の状況で様々で、多くは『緊急一時型』としての登録となっております。冠婚葬祭や通院などの緊急時や、リフレッシュしたい時などに、ぜひご活用ください。詳しくは、男女共同参画推進センターのホームページに一時保育要領が記載されておりますのでご参照ください。

女性教員リーダーシップ・サロン

2018年10月26日にマリア・グアハルド副学長補をお迎えして、「女性教員リーダーシップ・サロン」を開催しました。“Women in Higher Education: Past, Present and Future”（「高等教育における女性：過去、現在、未来」）のテーマのもと、学部・所属を超えた8名の様々な国籍の教員が参加し、自由な雰囲気の中で、英語と日本語でディスカッションを行いました。話題も多岐にわたり、過去から現在までの高等教育機関における女性教員や女子学生を取り巻く環境の変化、現在の日本の高等教育機関が抱える課題、大学における学生の現状と指導のあり方や、女性教員の大学での研究・教育活動と子育ての両立などでした。参加者全員が、意見や考えを述べ合い、未来の大学教育の展望も語るなど有意義な交流の場となりました。今後は、「女性教員サロン」として運営していく予定です。

なお、12月21日の昼休みにはサロンに参加した教員が、東京富士美術館内のカフェレストラン「セーヌ」にて、親睦を深める意味も込めて会食をしました。2018年を振り返り、年末年始の計画や2019年の抱負を皆で語り合いました。和やかで有意義なひとときとなりました。今後も、女性教員が研究、教育、子育て、介護など気楽に話し合い、啓発し合うことができる場を提供できればと考えています。



ワーク・ライフ・バランス相談窓口について

男女共同参画推進センターでは、教員の教育活動のサポートのため、就労・教育・研究環境を整備していくための一環として、ワーク・ライフ・バランス相談窓口を設置しています。

仕事と家庭生活の両立に向けたワーク・ライフ・バランスや、妊娠・出産・育児期の女性の健康問題などに関するご相談をお受けいたします。

このようなことで悩んでいませんか

- ・キャリアが先か、結婚が先かで悩んでいる。
- ・子どもを産みたくてもサポーターがいないので、仕事を続ける自信がない。
- ・仕事と家庭生活との両立が難しい。
- ・親を介護する可能性があり、休暇制度などについて情報を得たい。

相談窓口はこちらから

(教員) ポータルサイト→「ツール・リンク集」→「学内サイト」→「ワーク・ライフ・バランス (WLB) 相談窓口」

編集・発行 創価大学男女共同参画推進センター
<http://www.soka.ac.jp/particip/>

発行日 2019年2月27日

センター長 花見常幸

センター員 浦上輝子/岡部史信/木下 聖子/小林孝次/近藤重弘/高橋誠/富岡比呂子
中村玲子/長沼貴美/西山道子/藤本和子/森富士子

問い合わせ sankaku-center@soka.ac.jp



QRコードはこちら